



㈱ごんきや  
代表取締役社長  
**佐藤 知樹** 氏

さとう ともき 昭和50年4月宮城県仙台市生まれ。東海大学文学部卒業後、平成12年4月㈱ごんきや入社。16年10月同社専務取締役。27年7月1日代表取締役社長就任。現、全国法人会総連合青連協副会長。趣味は料理と子育て。

「この度、㈱涌谷葬祭センターの代表取締役会長に就任されましたが、その経緯は。」

佐藤 ㈱涌谷葬祭センターは、宮城県遠田郡涌谷町を基盤に地域に根ざした営業を特徴とする葬儀社で、46期目を迎えます。田中生花店という生花部門もあります。近年、競合の進出などもあり市場が変化するなか、後継者に非常に苦慮されていた。そこでお声を掛けていただいたのが、今回のきっかけです。お互い話合いの結果、文化と伝統のある涌谷葬祭センターが引き続きこの地で継続していくことを合意し、子会社（M&A）が成立しました。涌谷葬祭センターの田中英子代表には、取締役社長として引き続き陣頭

指揮を執っていただきます。

——ごんきやの役割は。

佐藤 ㈱涌谷葬祭センターは、葬儀、生花両部門ともに営業力がありますし、施行の質も高いです。特に、生花部門は長い歴史があり、地域から高く評価されています。しかし、時代の変化に合わせて、葬儀も進化しています。そこで、文化と伝統あるこれまでの手法をベースにして、ごんきやの資源やノウハウを上乘せしていきたいと考えています。具体

的には、ごんきやからスタッフを派遣し、既存スタッフの教育・指導を行い、さらなる質の向上を目指します。また、後継者の育成や業務の効率化も進めます。

——涌谷町と塩釜市は近いです。

佐藤 涌谷町は、塩釜市から小一時間の距離ですし、先日出店させていただきましたイオンモール石巻（石巻市）2階の「ギャラリイメモリアイオンモール石巻」から20分ほどです。位置的にも涌谷葬祭センターの経営を後押しできていると考えています。

——近年、葬儀のあり方がだいぶ変化しているようですね。

佐藤 「家族葬」については、既に定着していると感じます。葬儀というものが、故人に対して遺族が別れを告げ、感謝を伝えるという、ある意味原点に立ち返ってきたように感じます。「家族葬」とは、昔の葬儀のありかたに非常に近い存在で、ここに葬儀の本質があると考えています。ですから、「家族葬」の

価値をより高めていきたいと考えています。

——家族葬邸宅 [due]® (デュエ) 仙台荒井が17年9月に完成しました。

佐藤 仙台市若林区荒井7丁目にワンランク上の家族葬邸宅を新設しました。世界でたった一つの家族葬が実現できる場として評価をいただいています。故人とご家族がしっかりと別れができる、プレミアム家族葬というものを今後確立していきたいと考えています。

——新設計画は。

佐藤 18年夏前には、家族葬邸宅 [due]® の2館目をオープン予定です。また、近い将来涌谷にも展開していく考えです。

——18年9月までの貴社下期の取り組みは。

佐藤 社内の仕組みをより良いものにし、足元を固める期間にしたいと考えています。特に、創業200年のごんきやにしかできない強みを洗い出し、深掘りしていきたいと考えています。それは、他社との差別化ではなく独自化を目指す取り組みです。また、3月にはおそらく葬儀業界では全国初となる、ベトナム人スタッフをインターンシップにて導入します。

## 差別化ではなく独自化 を目指す取り組み推進

——この度、㈱涌谷葬祭センターの代表取締役会長に就任されましたが、その経緯は。」

佐藤 ㈱涌谷葬祭センターは、宮城県遠田郡涌谷町を基盤に地域に根ざした営業を特徴とする葬儀社で、46期目を迎えます。田中生花店という生花部門もあります。近年、競合の進出などもあり市場が変化するなか、後継者に非常に苦慮されていた。そこでお声を掛けていただいたのが、今回のきっかけです。お互い話合いの結果、文化と伝統のある涌谷葬祭センターが引き続きこの地で継続していくことを合意し、子会社（M&A）が成立しました。涌谷葬祭センターの田中英子代表には、取締役社長として引き続き陣頭